

粟鹿山のすそ野に広がる肥沃な盆地
 神々が集まって国を開いた伝説が残る
 のどかな里の風景にとけ込む粟鹿神社

裏路地探険

粟鹿神社周辺を歩く／山東町粟鹿

山東町粟鹿の里は、粟鹿神社を中心として古くから栄えた土地である。現在建設中の北近畿豊岡自動車道(和山山―春日)に伴う「粟鹿遺跡」の発掘調査で、奈良時代のものと思われる大きな建物の跡や土器、木簡などが多数出土した。このことから、粟鹿神社の敷地はかなりの大きさを誇り、但馬国一の宮と呼ぶにふさわしい勢力を持っていたことが立証された。

粟鹿の地名の由来は、昔々、但馬の神々が粟鹿山へ集まり、泥海の泥水を日本海に解き放ち、現在の但馬の地をつくったと伝えられている。故にこの粟鹿山を見国山というとか。途中に白鹿が粟を3本角にかけて来て、神様に献上し、



粟鹿神社

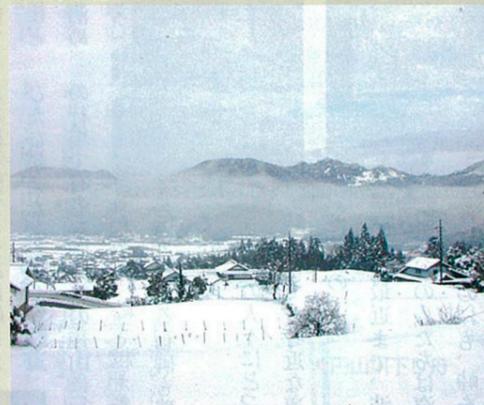


粟鹿神社をとりまく社叢林、大木が立ち並び



地元では「開かずの門」と呼ばれる勅使門。町の文化財に指定されている。

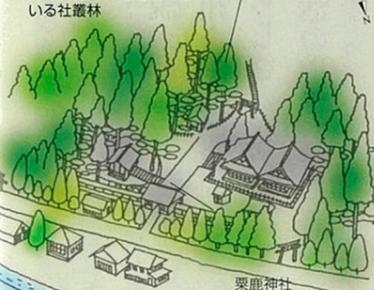
雪化粧した粟鹿盆地



粟鹿神社の七不思議

- 1 旧暦2月4日に境内の茗荷神社の池に生える茗荷の育成状況によって、その年の稲作の豊凶を占うという。
- 2 勅使門の彫刻二羽の鳳凰が毎夜に鳴くので、作者の左甚五郎が一羽の首を切り落とすと、以後鳴かなくなったという。
- 3 御手洗の池を三回まわって手をたたくと大蛇が出る。
- 4 境内の御陵柿の柿は今だかつて実のなかった年はないという。
- 5 玉の井の水は天下の名水で、どんな大飢饉旱魃の年にも枯渇したことがない。
- 6 亀を放すとよいといわれている四角い池の水は、奈良の二月堂の水に通じているという。
- 7 御手洗の池に丸木の橋をかけ、その上に俵を置いてお祈りすると必ず雨が降ったという。

町の文化財に指定されている社叢林



粟鹿神社

やツバキ、カシなどの自然林がある。この大地は「比叡頭段丘」と呼ばれ、大昔に粟鹿山から流れ出た土砂が堆積して、ゆるやかな台地を形成した。

坂道を登りきり、山すそにあるのが當勝神社。但馬・丹後・丹波の三国に広く信仰を集め、現在の本殿は安政6年に、拝殿は慶応4年に建てられた。特に龍や鳳凰などの彫刻がすばらしく、とりわけ旧本殿は彫り師・中井言次といつた当時の工匠の技が発揮された力作で、ユニークな架空の動物も見る事ができる。

また、神社には有名な落書きがある。田英夫氏(前参議院議員)の祖父にあたる健治郎氏(台湾総督・通信大臣)が上京前の若い時、「私は今、志を抱いてふるさとを出て行く。今考えていることができなかったら死んでも帰らない」と漢文で柱に書いている。

當勝神社から林道を200メートルくらいいけると「西宮市立山東少年自然の家」がある。天体観測室、創作活動室、野外炊飯場、スポーツゾーンなどが完備されており、夏は自然学校や青少年を中心とした利用者でいっぱいである



派手な彫刻で飾られている



當勝神社の名のもと、受験生たちが合格祈願に訪れる

絵馬がたくさんかけられている



お世話になった講師の増田哲雄さん

昔の大地主・日下家の屋敷跡に粟鹿神社への道が続く



●裏路地探険隊員募集
 平成17年4月9日(土)
 「出石城下町、路地をゆく」出石町内町T2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。

が、冬の時期は一般の方々も利用できる。さらに、すぐ上の高台には「さんとうアウトドアビレッジ」があり、テントサイトやバンガロー、研修棟などが整備されており、まさにこのあたりは野外活動、自然体験学習のメッカである。

ここから真下にある鹿園寺は山号を比叡山という。寺から北へ伸びる台地は「遠園」というそう。なんとものどかな夢のある名だろ。向かいの山は大同寺山で名刹大同寺がある。春はツツジと桜がきれいだ。柔らかな風の中、粟鹿の里に春を探しに行こう。

協力：増田哲雄さん